



クラブ・ユース事業 後継者と理事による意見交換会を開催

防疫対策について・代議員会開催のお知らせ



花房 享一郎
理事・交流部長
フラワーステーション
ファーム 花房牧場
(兵庫県)

クラブ・ユース事業に期待すること

交牧連クラブ・ユース事業を開始するにあたり、昨年12月11日に検討会議を開催し、後継者世代として各ブロックから8名の代表者に出席頂き、誠にありがとうございました。意見交換で特に印象に残っている内容を挙げてみますと、「色々な情報交換ができる同世代の仲間が欲しい。そのためにも交牧連活動を後継者世代に伝えることが大事」「仲間だけではなく、日本酪農の価値の再発見につながる勉強の場が欲しい」「生乳生産以外の価値を見出せる酪農教育ファーム活動をもっと進め、地域にとって必要な牧場となるよう頑張りたい」という意見をいただいた一方で、「ブロックによっては、会議や部会の参加メンバーが固定化、活動もマンネリ化してきており、後継者世代が参加する魅力に欠けるところがある」「後継者世代にとって、交牧連と関係団体組織とのつながりが見えない」といった理事、事務局では気付かなかった、また痛いところをつかれた意見もあり、今回の会議は、今後の事業の進め方に大いに参考になるものでした。

このような意見のなか、私は、後継者世代が情報交換できる場が欲しいことと、もっと交牧連として魅力ある、会員以外の牧場にもわかりやすく入りやすい雰囲気、環境作りをして欲しいことが強く感じられました。

また、今後のクラブ・ユース事業に期待することは、長期的に見れば将来の交牧連を担う人材育成事業ですが、どんな社会でも「自己革新」がなければ進歩(将来)はないものです。交牧連もしかり。そのようななかで、このクラブ・ユースがどしどし斬新なアイデアを出せるところになって欲しいし、交牧連として何が出来るのか?何をすべきなのか?問題意識を持ちつつも、将来の酪農について語り合う場所になり、夢をもって活動していける場所になって欲しいと思っています。

DF NEULLY DF ニュース 2014年3月号 発行日/2014年3月 発行/地域交流牧場全国連絡会 〒101-0044 東京都千代田区新富2-6-1 堀内ビル4階(一社) 中央酪農会議内 TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295 ホムページ http://www.dairy-farm.jp/

これより先は
牧場作業区域のため
関係者以外の立ち入りは
ご遠慮ください

注意喚起ツールは横書き
のバージョンもあります!
データは本会のホームページ
よりダウンロードできます。
ぜひご活用ください。

口蹄疫などの
感染症予防対策
感染症予防のためにみなさまへ次のことをお願いします。

お車でこの方は、車は駐車場もしくは牧場が設置する場所に駐車して下さい。

最近海外旅行にいかれた方もしくは他の牧場にいかれた方は、牧場の方にお知らせください。

牧場へ入る前・出る時は、手の洗いや靴を履き替えてください。

牧場へ入る前・出る時は、靴の裏面に消毒薬を塗りつけてください。

Farm Entry Prohibited
Entry to this area is prohibited.
Do not enter without permission.
Trespassers will be prosecuted
under Japanese law.

消費者への注意喚起ツール(24年度に本会が作成)

防疫対策をしっかりと

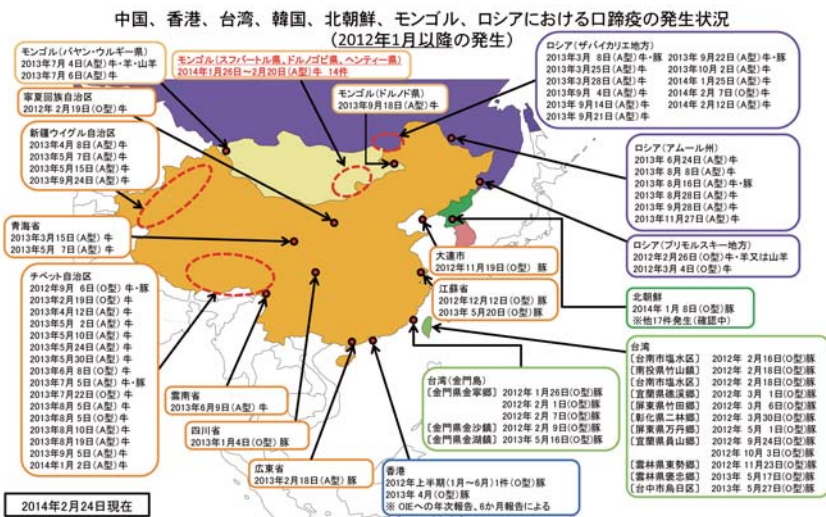
過去の悲劇を忘れずに、飼養衛生管理基準を遵守

日本での口蹄疫の発生は22年8月以降確認されておりません。しかし、ロシアや中国をはじめとした近隣諸国では引き続き発生が認められており、特に22年1月以降に近隣諸国で発生が確認されていなかった口蹄疫(A型)が25年2月に広東省の豚農場での発生以降頻発し、発生地域を拡大していることから、日本への口蹄疫ウイルスの侵入リスクは以前よりも高い状況にあると考えられます。

また、海外旅行者数は近年増加傾向にあり、観光庁によると、昨年、史上はじめて訪日外国人旅行者数が1千万人を突破するなど、外国人の日本への訪問も増えています。

本会では、22年8月に中央酪農会議と共同で「交流活動における感染症防疫マニュアル」を作成し、また、24年度には、消費者が牧場の衛生管理区域に無断で立ち入らないようにするため、独自の注意喚起ツールを制作しています。なお、近年、一部牧場で外国人来場者の増加もみられることから、英語表記のデータも作成しています。

宮崎の悲劇を忘れずに、飼養衛生管理基準を遵守して交流活動を行うように気をつけましょう!



詳細については、下記サイトにてご確認ください。(農林水産省ホームページ)
http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fmnd/index.html

代議員会の開催日程が決定しました!

26年度の代議員会は5月22日(木)に東京で開催予定です。
代議員の皆さま、ぜひともご出席くださいますようお願いいたします。

事務局からの
ご挨拶

皆さま、こんにちは。酪農教育ファームの担当の星井です。
交牧連の行事にも出席させていただいています。農協に勤務していた経験のある私としては、この担当になってから、酪農家の皆さまや牛と関わる機会が多くなり、とてもうれしいです。
今後も頑張ってまいりますので、よろしくお願いいたします。



クラブ・ユース事業

後継者と理事による意見交換会を開催

日時：平成25年12月11日(水) 13:30～ 場所：コープビル6階 第5会議室(東京都千代田区)

26年度に向けて「クラブ・ユース事業(後継者世代育成のための事業)」をどう計画するか、実際に後継者の意見を聞いたほうが良いという提案が理事会でなされたことを受けて、各ブロックより代表者を選出いただき、平成25年12月11日(水)に東京において、役員(会長、副会長、監事、交流部会長)とブロック代表後継者との意見交換会(クラブ・ユース検討会議)を行いました。

- 会議では次のような意見が出ました。
- クラブ・ユース事業は交流部会の活動として考える
 - 目的は、日本酪農の発展のための後継者育成
 - 年齢制限を設けた方が良い(目安で40歳程度)
 - 交牧連組織の存在が農家に知られていないのが大きな課題。どうやってアピールすべきか検討が必要。交流活動の経済性(経営の優位性)を公表できれば
 - 農業高校や大学生にも今後積極的に働きかけて、若いうちから交牧連活動(イベント等)に参加してもらうべき

また、26年度の事業内容については、後継者世代の出席者より以下の意見がありました。

- 後継者(若手)を対象とした、勉強会や意見交換会の開催
テーマ例)経営手法、組織の関わり、牛乳流通の仕組み、屠場見学会、乳製品製造(チーズなど)、海外研修等
- 若手(後継者)とベテランとの意見交換会の開催
- 他業界(流通業、酪農以外の農業、製造加工業等)との交流

今後は、出された意見をもとに、理事会等にて議論を進め、26年度の事業内容を決定する予定です。

会議に出席された後継者の皆さんに会議の感想や今後の展望などについて寄稿していただきましたのでご紹介いたします。

九州ブロック代表 里村 貴司さん(さとむら牧場:長崎県)

【会議に参加して感じたこと、考えたこと】

- ユースの定義は?
- ユースの中では交牧連の組織や活動に対して、知っている人と知らない人がいた。
- 現状はユースが二極化している。
- 情報の非対称性があるのではないかな?
- 例えば、PDCA*のCを明確にしないまま議論が進んではいないかな?
- 問題①新規の方(=ユースの場合もあるかもしれない)のフォローアップなのか
- 問題②既存の方(=交牧連経験の長いユースもしくは前任者(親等)から引き継いでいるユース)をフォローアップしていくのか
- 問題③新規加入の人を育てていく(=新規ユース、新規会員(ユースの定義付けがされていないけれども、ユースと認識されない人たちもいるかもしれない))
- 現状が明らかになったことが今回、一番の収穫では?

*)PDCA…Plan(計画)Do(実行)Check(評価)Action(改善)の4つの観点からなるプロセス。PDCAサイクルとも言う。

クラブ・ユース検討会議の出席者

1.ブロックからの推薦者

※順不同・敬称略

ブロック	氏名	牧場名	都道府県
北海道	雨田 章子	美瑛ファーム 美瑛放牧酪農場	北海道
東北	安原 大陸	ABITANIA ジャージーファーム	青森県
関東	石田 陽一	有限会社 石田牧場	神奈川県
関東	田中 華	田中和浩牧場	神奈川県
北陸	西出 穰	西出牧場	石川県
東海	加藤 悠太	加藤牧場	愛知県
近畿・中国・四国	西山 農	西山牧場	兵庫県
九州	里村 貴司	さとむら牧場	長崎県

2.理事

役職	氏名	牧場名	都道府県
会長	廣野 正則	有限会社 廣野牧場	香川県
副会長	吉田 恭寛	吉田牧場 牧場のログハウス「ちぢぶ路」	埼玉県
副会長	清水 ほづみ	清水牧場	愛知県
監事	藤田 毅	有限会社 フジタファーム	新潟県
交流部会長	花房 享一郎	フラワーステーションファーム 花房牧場	兵庫県

3.事務局

役職	氏名	所属部署等
事務局長	齋藤 淳	(一社)中央酪農会議 業務部次長
	星井 久美子	(一社)中央酪農会議 業務部次長
	三代 絵理	(一社)中央酪農会議 業務部



北陸ブロック代表 西出 穰さん(西出牧場:石川県)

検討会議では、同世代の意見や考えを受け本音で議論し、今後自分たちと同じ後継者世代の人たちが交牧連で活躍する場を作る為にも、非常に重要な会議になったと感じています。交牧連が永続的に活動していくには、私たち後継者が仲間や諸先輩方から学び、それをさらに次の世代に伝えていく仕組みが必要です。

クラブユースは世代から世代への橋渡し役として、また地域を超えた仲間との交流の場としても今後の発展に重要な役割を担っていくと思います。



近畿・中国・四国ブロック代表 西山 農さん(西山牧場:兵庫県)

【会議に参加して】

- 自分の身の回りにはなかなか交流牧場の活動を積極的にされている若い方がいないのでとても楽しかった。
 - 情報の交換や活動上の問題点などが出来た。
- #### 【クラブ・ユース事業に期待すること】
- それぞれが独自で行っている活動の情報をもっと共有化できればと思うし、そういった場を作れたらと思う。
 - 今は別々に行っている活動を年に一度でも大きなイベントとして、ユースの全国的な催しが出来ればと思う。
 - HPやブログなどの活用により、日常的に気軽に情報や意見の交換ができるようになればいいと思う。

北海道ブロック代表 雨田 章子さん(美瑛ファーム・美瑛放牧酪農場)

同世代の方と意見交換ができ、酪農に対して幅広い考え方があると感じ、とても充実した時間を過ごすことができました。今後活動内容を絞っていくのは難しいかと思いましたが、活動を通じて交流の輪が広がっていくことが、酪農を盛り上げていくことにつながっていくと感じています。今後が楽しみです。参加させていただきありがとうございました。

東北ブロック代表 安原 大陸さん(ABITANIAジャージーファーム:青森県)

12月11日に開催されたクラブ・ユース検討会議に参加し、多方面からの意見を交わしたことは大きな収穫でした。特に、消費者や交牧連に属していない酪農家に対するアプローチの仕方、情報の発信方法などはこれからの課題でもと感じました。また、クラブ・ユース自体のこれからの在り方についてもいろいろと議論していく必要性があります。若手、後継者の新規会員の勧誘、交牧連とクラブ・ユースの関係性については重要な課題です。

クラブ・ユースが独立性を保つためには、次回以降の会議を、クラブ・ユースの会員に限定した参加とすべきだと考えます。交牧連の会員皆と議論することは非常に意味のあることではありますが、クラブ・ユースの独立性を考えると望ましくないと感じました。

しかし、お互いの意見交換や議論することは必要不可欠であるため、交牧連とクラブ・ユース合同の場をまた別に設ける必要があります。

クラブ・ユース検討会議に参加して、早急に議論していかなければならないと感じられたことは以上です。

関東ブロック代表 田中華さん(田中和浩牧場:神奈川県) 石田 陽一さん(石田牧場:神奈川県)

初めての参加で緊張しましたが、いろいろな方の話を聞くことができて良かったです。

交牧連クラブ・ユースにはとても可能性を感じております。酪農の持つ多面的な価値を追及し続ける若手が結集し、互いに成長し合える組織となるよう力を尽くしていきたいです。

東海ブロック代表 加藤悠太さん(加藤牧場:愛知県)

今回クラブ・ユースに参加させて頂き、他の地域の方にお会いできて嬉しく思っています。東海酪連の行事にも父が参加することが多く、分からないことばかりでしたが、役員の方々の配慮もあり初めてでも話しやすい環境を作って頂き、とても貴重な時間となりました。

今後全国から多くの方々が集まりイベントなどを通して交流していけたらと思います。これからもよろしくお願ひします。